

多様なみどりを 市民みんなで 守り 育み 未来へつなぐ



伊丹市生物多様性みどりの基本計画 2021

【概要版】

本計画は、都市緑地法第4条に基づく緑地の保全と緑化の推進及び都市公園の整備を総合的に推進するための緑の基本計画と生物多様性基本法第13条に基づく生物多様性の保全及び持続的な利用に関する生物多様性地域戦略を統合した計画で、同時に伊丹市環境基本計画（第3次）における自然環境分野の個別計画です。

対象区域は伊丹市全域、計画期間は2021年度から8年間ですが、社会情勢の変化や法制度の改正などに対応するため、必要に応じて見直しを行います。

●本計画における「みどり」の定義

樹林地、草地、農地、自然裸地、水辺の草地、水面などのオープンスペース及びその土地における生き物や水、土壌など自然の構成要素全体の総称です。

●みどりの多様な機能と効果

みどりは「市民活動の場・憩いの場の提供」「生物多様性の保全」「まちの魅力の向上」「環境の改善」など、市民生活を豊かにする多様な機能を備えています。また、みどりは地域ごとに計画的に配置し、育てることで都市基盤として機能します。

市民活動の場・憩いの場の提供



みどりは心身をリフレッシュさせ、潤いや安らぎを与えてくれます。

地域コミュニティの形成等



地域コミュニティの形成や市民交流を促進する効果があります。

生物多様性の保全



生き物の生息・生育の場となり、地域を特徴づける生態系を形成します。

まちの魅力の向上



四季の変化に応じた景観を形成し、地域の風土・文化を創出します。

環境の改善



ヒートアイランド現象、大気汚染、騒音等を緩和する効果があります。

防災性の向上



雨水浸透、火災時の延焼防止、災害時の避難場所となります。

●生物多様性からの恵み

私たちの命や暮らしは、自然から受ける様々な恵みに支えられています。

供給サービス



食料や燃料等、私たちの暮らしに必要な資源は、生き物から得られています。

調整サービス



街中のみどりは、ヒートアイランド現象等、地表近くの気象現象を緩和します。

文化的サービス



みどりは私たちに安らぎを与え、癒し、健康づくり、文化創造の場となります。

基盤サービス



自然から得られる酸素、土壌、栄養循環、水循環等は、私たちの命の源です。

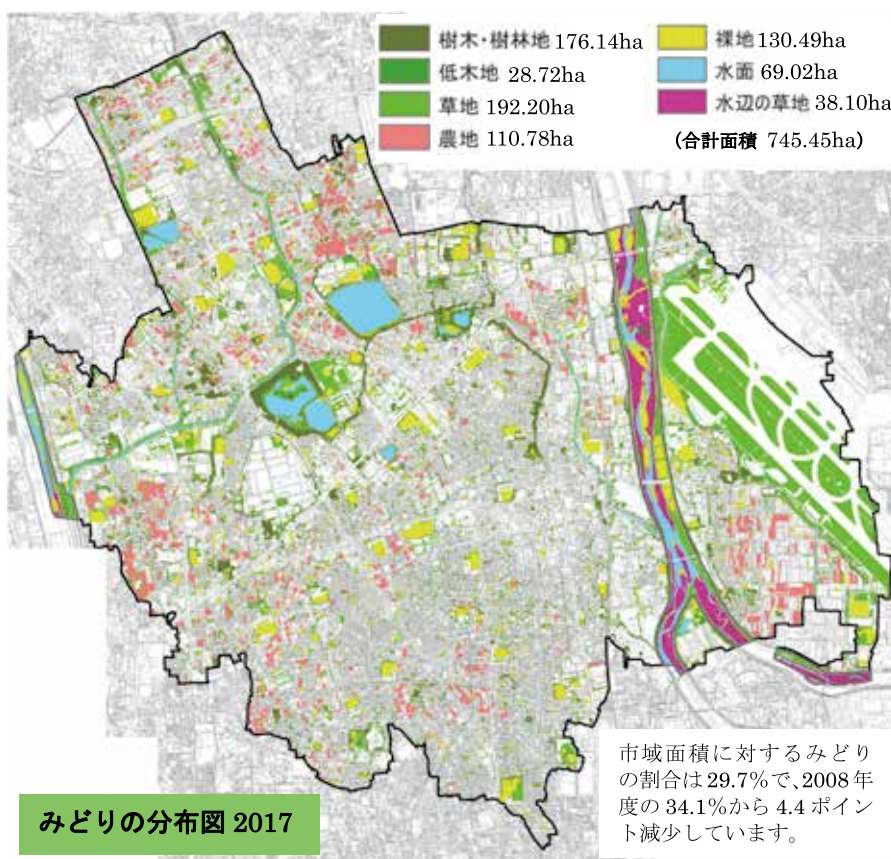
●計画の方向性

1999 年策定の伊丹市みどりの基本計画において示された都市公園等は、現在、ほぼ計画通りに整備されています。今後は、これらのみどりの質を高め、市民生活に活かす取組が重要になります。したがって、本計画においては、市民みんなが生物多様性に関する理解を一層深めていくなかで、市民の参画と協働により、安全性、快適性、生物多様性を重視した伊丹らしいみどり環境の形成を図る方向性としします。

みどりの現状と課題

本市は市街地の集積度が高く、自然的環境は昆陽池公園から瑞ヶ池公園、緑ヶ丘公園、伊丹緑地まで半環状に続く緑地と猪名川、武庫川、社寺林及び農地に限られています。とくに市街化が進んだ地域では、都市公園や児童遊園地、社寺林がみどりの拠点となっています。

これからは、こうしたみどりが適切な安全管理のもとに、市民が身近に自然とふれあう場や生き物の生息・生育の場として育成されることが期待されます。また、新たな緑地の確保が困難な現状においては、これまでに確保してきたみどりを失わない努力がとくに必要とされます。



みどりの分布図 2017

市民意見

- 自然環境が豊かである 33.3%
- 施策満足度は、公園の整備 65.7%
- 自然環境の保全 53.4%
- 子どもが安全に遊べる公園整備
- 清潔を保つ公園の管理
- 緑のある町並みを残してほしい
- 花壇にすることで心が安らぐ

都市緑化と公園緑地における課題

- みどり率は29.7%で減少が続く
- みどり率は地域により偏りがある
- 特徴的なみどりの景観が減少
- 高木の管理及び防災機能の確保
- みどりの管理水準を高める取組
- 子どもを健やかに育てられる環境
- 地域ニーズに対応した公園再整備

生物多様性における課題

- 特定外来生物等が急増し従来の市民活動レベルでは対応できない
- 在来の草本類の減少が著しい
- 生物多様性保全に係る取組の充実
- 自然調査や貴重種保全の継承
- 緑地の自然性や生物多様性を高めエコロードでつなぎ、連続性を確保

参画と協働における課題

- みどりに関心の薄い人や子ども等誰でも楽しく参加できる取組が必要
- 市民活動団体による取組の支援
- 協働による取組や自然環境学習を地域で指導する実践的人材の育成
- 協働する多様な主体の交流と連携
- 昆虫館による協働の取組の促進

○現状 □課題

●伊丹を特徴づけるみどり



奈良時代築造の昆陽池公園



瑞ヶ池公園 猪名の笹原



段丘崖沿いに続く伊丹緑地



流域面積 383 ㎢の猪名川



日米友好の桜 里帰り桜



オニバスが再生した西池



法巖寺の大クス（クスノキ）



市街地の中に残る御願塚古墳

●将来像

人と生き物が共生し、水とみどりの潤うまち＝伊丹

将来像は「伊丹しみどりの基本計画 2011」及び「生物多様性いたみ戦略」を継承し、「人と生き物が共生し、水とみどりの潤うまち＝伊丹」とします。武庫川・猪名川といった水の流れが広がり、長尾山系や六甲山等からは自然の息吹が流れ込む。このような伊丹の地理的特性を活かし、これまでに確保してきた多様なみどりを大切に保全し、市民の参画と協働のもと、安全性や快適性、生物多様性の視点からその質を高め、地域資源ともなる豊かなみどり環境に育てていきます。

●基本目標

多様なみどりを市民みんなで守り、育み、未来へつなぐ

将来像の実現に向けた取組の基本目標を、「多様なみどりを市民みんなで守り、育み、未来へつなぐ」と定め、市民が力を合わせて伊丹らしいみどり環境を形成していくなかで、誰もが身近な自然に親しみ、生物多様性の恵みを感じることできるまちづくりを進めます。

●基本方針

基本目標のもとに、その方向性を具体化するため、①伊丹らしいみどり環境の確保、②生物多様性を未来につなぐ、③参画と協働による推進、の3つの基本方針を設定します。そして、この基本方針のもとに、市民一人ひとり、市民活動団体、地域、事業者、生涯学習施設、学校園、市等、それぞれが主体となり、連携し、各種施策や取組を推進することとします。

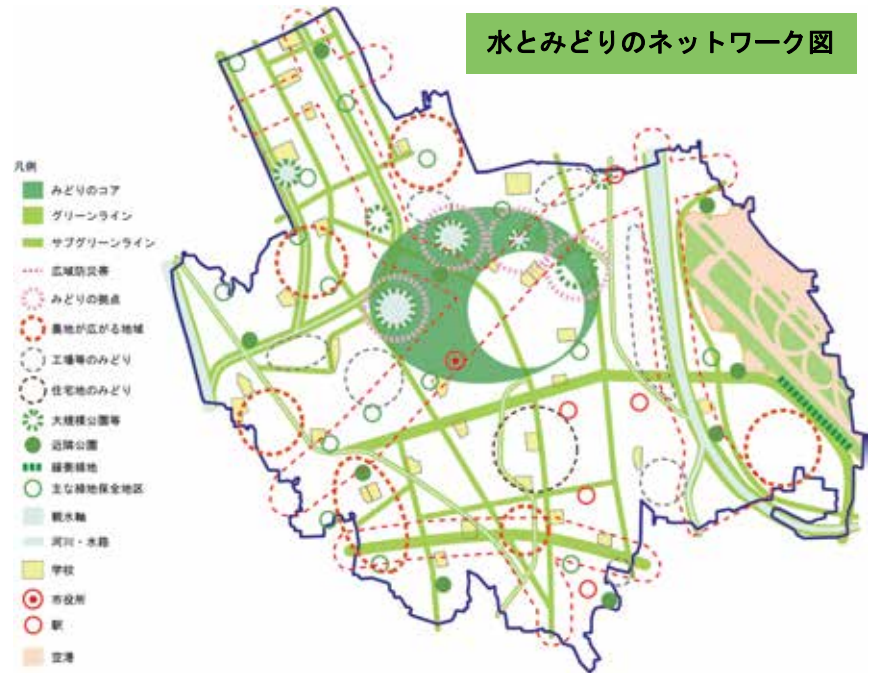
また、これらの基本方針の達成状況を評価するための成果指標を設定し、その進行管理を行います。指標値は、本市が 2019 年度に実施した伊丹市民意識調査の結果をもとに設定し、定期的な実施される伊丹市民意識調査により実績値を把握することとします。

基本方針の達成状況を評価するための成果指標

基本方針／指標	基準値 2019 年	計画目標値 2028 年
① 伊丹らしいみどり環境の確保 指標「みどりに対する市民満足度（％）」	60%	80%
② 生物多様性を未来につなぐ 指標「生物多様性の認知度（％）」	30%	50%
③ 参画と協働による推進 指標「緑化や自然保護活動に参加した市民の割合（％）」	—	10%

●みどりの配置方針

本市では、当初の伊丹市みどりの基本計画（1999年）において、みどりの主体的な機能である防災、文化・レクリエーション、景観形成、環境・生物多様性保全の4つの系統別に、それぞれの緑地の配置方針が設定されています。現在、緑地の基本的な配置はほぼ終了していますので、今後は、配置されたみどりに係る生物多様性面の質を向上させることでエコロジカルネットワークの形成につなげます。



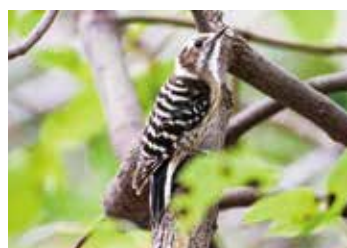
みどりの系統別配置により形成された総合的な水とみどりのネットワーク：当初計画で設定されたみどりのコアと親水軸等をつなげることで、本市のみどりの骨格を形成し、自然の息吹を市域にいきわたらせる配置としています。

●エコロジカルネットワークの形成

エコロジカルネットワークは、生き物の視点からみどりとそのつながりをみたもので、生物多様性の確保を図るために不可欠です。

国土交通省では、都市の生物多様性確保のポテンシャルを有する緑地等により構成されるエコロジカルネットワークの評価指標として、鳥類のコゲラやシジュウカラ、哺乳類のホンダヌキが示されています。

シジュウカラは街路樹等も含めた緑地における食物網の健全性を示す指標種で、市内では1983年頃は昆陽池公園や緑ヶ丘公園周辺に生息していましたが、今日ではほぼ全ての都市公園などで観察されるようになっていました。開発の時代に市内各地に整備されたみどりが、年数を経ることで多様な生き物の生息・生育の場となっていることがうかがえます。



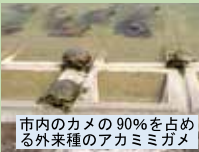
エコロジカルネットワークの評価指標種 コゲラ



緑地における食物網の健全性を示す指標種 シジュウカラ

施策展開

本計画における将来像の実現には、基本方針に沿って、市民や事業者、市等がともに参画し協力しあって施策

基本方針	施策の方向性	
1 伊丹らしい みどり環境の確保	①身近なみどりの充実	みどりはまちの魅力を構成する重要な都市基盤の一つです。これからは質の高いみどりを育てることに軸足を置き、例えば小さなみどりであっても可能な限り確保し、その機能をより効果的に発揮できるような施策を展開します。  
	②魅力ある公園緑地づくり	公園緑地がもつ多様な機能をまちづくりに最大限に活かすため、安全性を最優先するなかで地域との連携を強化し、市民等の参画と協働を一層推進します。また、本市を代表する大規模公園については、公園ごとの特色をさらに活かす取組を進めます。  
	③子どもを健やかに育てていけるみどりづくり	子育て期にある市民等が公園に集い、ともに楽しく遊べる空間づくりを進めます。遊具等の公園施設については、とくに安全面と衛生面に配慮した維持管理を行います。また、学校園をはじめとする公共施設等のみどりの質の向上及び農とふれあう機会の充実を図ります。  
2 生物多様性を 未来につなぐ	①生物多様性の重要性の発信	生物多様性に関する正しい知識や生物多様性に配慮した暮らし方を普及する取組を推進します。また、昆虫館を本市の生物多様性センターとして位置付け、生物多様性に関する情報発信の拠点とする中で、新たな事業展開を図ります。  
	②生物多様性の保全及び再生	都市化の中で失われてきた地域固有の生き物や自然環境を再生する取組を推進し、在来生物の生息・生育空間を少しでも増やし、つないでいくことで地域の生態系の回復を目指します。また、市民活動団体等による生物多様性保全活動の支援を図ります。  
	③野生生物の保全管理及び侵略的生物の防除対策の推進	自然環境調査と情報の収集・公開を促進します。地域の自然環境を指標する生き物を市民協働でモニタリングし、保全管理に役立てます。地域の生態系に重大な影響を及ぼす侵略性の高い生き物については、外来、在来を問わず防除対策を実施します。  
3 参画と協働 による推進	①人材の育成及びネットワークの強化	みどりの質を高める取組を推進する人材育成をはじめ、子どもたちに体験型のイベントや動植物全般に関する環境学習プログラムを提供する指導者や地域で生物多様性保全活動を支えるサポーター等の育成に計画的・組織的に取り組みます。  
	②身近な自然や花緑、農に親しむ機会の充実	緑化や自然環境保全に係る取組に参加する市民が限定的なため、情報発信における新たな媒体の活用をはじめ、花緑や自然、農に親しむ活動への参加・協働の機会を増やすなど、みどりに関心を持つ市民の裾野を広げる取組を充実します。  
	③自然環境学習の充実	学校園、生涯学習施設、地域、家庭等の様々な場において、子どもから大人までが身近な自然とのふれあいを通じた自然環境学習に取り組みます。昆虫館では市域の生き物全般に係る情報・資料の蓄積と公開、生物多様性に関する学習活動を充実します。  

を展開していく必要があります。そのため、次の体系にしたがって施策展開を図ります。

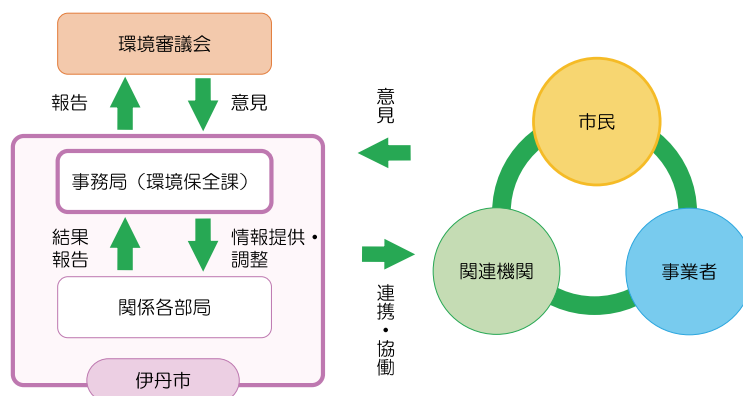
主 要 施 策	活 動 指 標
①防災、環境改善等の機能を有する都市公園、農地等オープンスペースの確保 ②「伊丹市街路樹管理計画」に基づく快適でうおいのある道路緑化の推進 ③農地（生産緑地）の保全・活用 ④安全性や快適性、地域特性、生物多様性に配慮した伊丹らしいみどりの充実 ⑤在来植物による緑化の推進	市域面積に対する永続性のある緑地の割合（％） 
①昆陽池公園他、大規模公園それぞれの特色を活かした魅力づくりの推進 ②昆陽池等の水環境の保全 ③地域ニーズに応じた都市公園等の整備・再整備の推進 ④都市公園等を活用した健康づくりの推進	大阪国際空港周辺緑地（伊丹スカイパーク）の来園者数の合計（人） 
①公園施設の長寿命化計画に伴う遊具等の適切な維持管理の推進 ②子どもたちがのびのびと運動し、子育て世代が楽しく交流できる公園・広場づくりの推進 ③校園庭、通学路、公共施設等のみどりの質の向上 ④農とふれあう機会の充実及び食育の推進	学校園による緑地等の教育利用回数（回） 
①身近な生き物や生物多様性に関する正しい知識及び暮らし方の普及 ②昆虫館における身近な生き物や生物多様性に関する展示教育活動等の推進 ③地域の自然や歴史文化を再認識できる場の確保	昆虫館の利用者数（人） 
①昆陽池公園における生物多様性の保全及び再生 ②地域を特徴づける生物多様性の保全及び再生 ③伊丹に由来する地域性な来生物の保全及び育成 ④広域的なエコロジカルネットワークの形成	在来生物の種類数（種） 
①自然環境調査の推進 ②自然環境情報の蓄積・公開及び評価 ③貴重な野生生物の保護対策の推進 ④侵略的生物の防除対策の強化	カラスの個体数（％） 
①地域に密着した実践的人材の育成 ②みどりのまちづくりや生物多様性保全活動を牽引するリーダー的人材の育成 ③みどりづくりに関わる多様な主体の連携・協働に向けた仕組みづくり	人材育成に関する講座等の修了者数（人） 
①みどりに関わる協働の裾野を広げる取組の推進 ②コミュニティガーデンづくりの推進 ③活動団体による協働の取組に対する活動支援	市民緑化協定等の件数（件） 
①学校園における身近な自然や生き物を対象とした学習の推進 ②昆虫館における展示収蔵資料や昆陽池の自然資源を活用した学習の推進 ③生物多様性に関する学習の場の充実	伊丹市の生物多様性に関する教材等作成件数及び生物多様性保全活動に参加する学校団体数（団体） 

計画の推進

●参画と協働による推進

市民、事業者、生涯学習施設、学校園、市等、地域に関わる様々な主体が連携・協働して取組を発展させます。

推進体制は伊丹市環境基本計画によるものとし、必要に応じて国、県、市町等と連携した取組が進められる体制を整えます。



伊丹市環境基本計画（第3次）より引用

伊丹市環境基本計画における推進体制

●事業の進行管理

伊丹市環境基本計画における PDCA サイクルによる進行管理を基本とし、本計画に掲げられた施策を着実に実施し、その達成状況及び伊丹市環境審議会みどり環境部会の意見を踏まえて計画全体の適切な見直しを行います。また、その実施状況を「伊丹市環境基本計画年次報告書」や市ホームページ等において、随時公表します。

伊丹の貴重な野生生物

伊丹市域では、これまでに植物 1,341 種、動物 2,000 種が記録されています。本計画では、野生生物の保全・再生の取組に役立てるため、今、消滅の危機にある貴重な生物（植物 87 種、動物 184 種、群集・群落、個体群 8 件）を選定しています。



デンジソウ



オニバス



ツルフジバカマ



アオバズク



カワセミ



ニホンイシガメ



ベニイトトンボ



シルビアシジミ

令和3年3月

伊丹市 市民自治部 環境政策室 みどり自然課

〒664-8503 伊丹市千僧1丁目1番地

TEL (072) 780-3521 <http://www.city.itami.lg.jp/>



伊丹市マスコット たみまる